

第124回 関西広域連合委員会

日程：令和2年11月25日（水）

場所：大阪府立国際会議場

10階 1001-2会議室

開会 12時45分

○井戸広域連合長 お待たせいたしました。第124回の広域連合委員会を開会させていただきます。

本日の議題は、広域連合長の選挙となっております。ただいまより、事務局から選挙の手順等についてご説明させていただきます、その後、選挙を実施させていただきますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○事務局 それでは、ご説明いたします。

ただいまから広域連合長選挙を行います。選挙は、関西広域連合長の選挙に関する規則に基づき、お手元に配付しております次第のとおり執り行います。

選挙の手順についてご説明をいたします。

はじめに、規則第4条第1項の規定により、自ら候補者となろうとされる方、あるいは候補者を推薦される方から、その旨の表明をお願いいたします。その結果、候補者が複数となった場合は規則第4条第2項第1号の規定により投票による選挙を行います。また、候補者が1名の場合は、同第2号の規定によりまして、当該候補者を当選人といたします。

投票の方法は、投票用紙または挙手により行うこととします。

また、当選人は有効投票の最多数を得た者としませんが、有効投票総数の4分の1以上の得票が必要です。なお、代理出席の方は構成団体の長の指示に従って投票することとなっておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、早速、候補者の確認に入らせていただきます。

立候補または候補者の推薦がございましたら、その旨の表明をお願いいたします。

○飯泉委員 井戸広域連合長、本当にお疲れ様でございました。私からは、仁坂副広域連合長を推薦させていただきたいと思います。長年、井戸広域連合長をお支えいただいていたので、その意味で一番適任ではないかと思っております。

○事務局 ただいま飯泉委員から仁坂副広域連合長を推薦する旨の表明がございました。ほかにご発言はございますでしょうか。

ございませんでしょうか。

なお、規則で、代理出席される方はあらかじめ書面により推薦をいただくことになっておりますが、今現在、推薦状の届出は提出されていないことをご報告いたします。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、改めてご確認いたします。

ただいまご推薦のありました仁坂副広域連合長のほか候補者はないものと認めますが、皆さんご異議ございませんでしょうか。

〔異議なし〕

○事務局 それでは、候補者は仁坂副広域連合長 1 名のみでございますので、関西広域連合長の選挙に関する規則第 4 条第 2 項第 2 号の規定に基づき、仁坂副広域連合長（和歌山県知事）を当選人といたします。

○井戸広域連合長 10年間という大変長い間、皆様にお世話になってまいりましたが、ただいまの選挙結果をもちまして、仁坂副広域連合長に広域連合長を引き継いでいただくことになりました。これまでの間の皆様のご協力に感謝を申し上げますとともに、時代が大きく変化している流動的な時に仁坂新広域連合長にバトンタッチをさせていただきますが、引き続き、仁坂新広域連合長の下で広域連合としての役割を是非果たしていただき、さらに伸長していくことを期待したいと思います。仁坂新広域連合長に、これまでのご協力に対する感謝とこれからのご活躍を期待申し上げ、ご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局 それでは、仁坂次期広域連合長よろしく申し上げます。

○仁坂副広域連合長　　ただいま皆様からご推薦いただきまして、新しい次期広域連合長に選んでいただきました和歌山県知事の仁坂でございます。

今、井戸広域連合長からお話がありましたが、井戸広域連合長は、本当にすばらしいリーダーであったと私は思っております。ここでたくさんの事績を申し述べても仕方がないわけですが、皆様それぞれに思い入れがあり、そのように思っておられるものと確信をしております。

私としては副広域連合長としてずっとお仕えをしてきたわけですが、井戸広域連合長にはずっと、永世広域連合長としてやってもらいたいと思っており、期待もしておりましたが、いろいろな事情があつて、皆様のご推薦で後を引き継がせていただくことになりました。井戸広域連合長のようにはなかなかいかないかもしれませんが、誠心誠意努力して広域連合を盛り立てていきたい、関西を発展させていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○井戸広域連合長　　ただいまご挨拶がありましたように、次期広域連合長が仁坂和歌山県知事に決定いたしました。広域連合規約第13条3項の規定によりまして、広域連合長は副広域連合長を選任することになっております。任期の始まりが12月4日（金）でございますので、それまでにご選任していただければと思います。この場で選任していただくことも結構でございますが、仁坂新広域連合長いかがでしょうか。

○仁坂副広域連合長　　私としては、京都府の西脇委員に副広域連合長になってもらいたいと思っております。今日はいらっしゃらないのですけれども、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○井戸広域連合長　　それでは、この場に西脇委員がいらっしゃらないので、すみませんが、山下副委員にお持ち帰りいただいて、新広域連合長のご意向をお伝ひいただき、もしよろしければ、西脇委員から新広域連合長にお伝ひいただくという運びにさせていただきますのでよろしゅうございませうか。では、どうぞよろしくお願ひいたしま

す。

今日の議事は、これで終わります。ご協力ありがとうございました。

この後、広域連合の設立10周年記念式典もありますが、1つの大きな区切りを迎えたこの時に、皆様のご理解を得て勇退させていただくことができまして、大変喜んでおります。感謝を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、これにて第124回広域連合委員会を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

○事務局　　ありがとうございました。

引き続き、この場で記者会見に移らせていただきます。

井戸連合長と仁坂次期広域連合長は前に並んでいただいて、他の委員の皆様はその場でご着席いただければと思います。

では早速ですが、報道関係の皆様からのご質問をお受けしたいと思っております。挙手の上、社名、お名前をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○関西テレビ放送　岡田　　関西テレビ放送の岡田と申します。よろしく願いいたします。

今、コロナの第3波が来ていて、病床数が逼迫してくることが目に見えて分かっているかと思うんですけれども、関西広域連合として連携体制、重症患者の受入れとかの体制などはもう動かれているのでしょうか。具体的をお願いします。

○井戸広域連合長　　既に何回も関西広域連合としての対策本部会議を開催しており、医療物資や人員の協力も行うことにしておりますが、病床不足に対しましても適切な協力をする、不足のところをそうでないところが助けるという状況をつくることにしています。個別に申出がありましたら、広域医療局が調整させていただくことになっております。

ただ、重症患者を動かすのか、それとも中等・軽症の方を動かして、病床を確保し

て、そこを重症患者に対応するというような、いろんな協力の仕方がありますので、それらは具体に応じて対応ということにいたしております。

○関西テレビ放送 岡田 今週にも大阪などでは50%になってきて、今週、来週ぐらい危ないんじゃないかって言われている中で、実際に重症患者さんを動かす具体的な動きみたいなのはあるんでしょうか。決まりみたいなものは。

○井戸広域連合長 先ほども言いましたように、実態に応じた対応をすべきですので、一律の基準に基づいて対応するケースではないのではないかと思います。そういう意味で、逼迫してくれば適切どころが協力をしていく。その調整を広域医療局でやらせていただくということになっております。

○関西テレビ放送 岡田 重症病者さんは搬送リスクもあったりドクターヘリも使えなかったりということで、軽症とか中等症の方を動かすことも具体的に考えてらっしゃるってということですかね。

○井戸広域連合長 先ほど申し上げたとおりです。そのとおりです。

○関西テレビ放送 岡田 ありがとうございます。

○事務局 ほかに。後ろ、挙手いただいている方。

○神戸新聞 藤井 神戸新聞の藤井と申します。井戸広域連合長に3点伺いたいと思います。

先ほどもご挨拶の中にありましたけれども、10年間の振り返り、あえて1つ上げていただくなら、どういった成果があったと思われているか、そして仁坂新広域連合長率いる新たな広域連合にどういうことを期待されるか、まず教えていただけますか。

○井戸広域連合長 一番の成果は、関西広域連合が発足して、そして10年間活動を展開し続けてきたことだと考えています。そもそも、府県域をまたぐ広域連合は10年前に難産の上で生まれたわけでありますので、難産の子はよく育つと言われるのですが、よく育ったかどうかはともかくとして、10歳になったということ、これ自体が一番の成果だと思っています。

この後は、新広域連合長がしっかりと、引き続きリーダーシップを発揮していただけるのではないかと期待しております。

○神戸新聞 藤井 井戸広域連合長にもう一つ、兵庫県知事としての任期が来年7月末になってらっしゃると思うんですけども、そういったことも今回、互選なので選挙の結果だと思うんですけども、この連合長選に影響したと思われるのか、それとも10年の一区切りというような思いがあらわれるのか、いかがでしょうか。

○井戸広域連合長 来年7月に兵庫県知事選挙が行われることになるとは思いますが、それは来年になってみないと分からない話です。先ほどの挨拶でも触れましたように、広域連合10年の節目を迎えることになりましたので、1つの区切りとして、新広域連合長の下で活動を新たに展開していただくことが広域連合としても新しい時代にふさわしい活動になる得るのではないかという思いもありまして、勇退させていただいたということが第一義でございます。

○神戸新聞 藤井 では、特に知事選挙を見据えてのことではないという認識でよろしいでしょうか。

○井戸広域連合長 来年のことを今から条件にするということも言ってみても始まらないのではないかと、そのように思っております。

○神戸新聞 藤井 ありがとうございます。仁坂新広域連合長に質問をお願いします。

先ほど10年、10歳になったことが一番の成果と井戸広域連合長がおっしゃられましたけれども、もちろんいろんな成果を上げる一方で、当初の丸ごと移管といったようなところはまだ道半ばであると思うんですけども、そういったことに関して、喫緊の課題、コロナとかも入ってくるのかもしれませんが、喫緊の課題と中長期的、どういった新広域連合にしていきたいかという思いをもう一度教えていただけますか。

○仁坂副広域連合長 たくさんの成果があったと私は思っています。それから、今お話がありましたように、出先機関、地方支分部局の移転というのが未達に終わっているわけですけども、しかし、広域連合ができたことによって、それが堂々と世の

中で、オールジャパンで大議論になったってということだけでも大変な成果だったのではないかなと。それで、広域連合があるから全体のご意見拝聴ということで、いろいろな焦点が、広域連合、関西に集まったということはものすごく大きかったんじゃないかと思います。

そういう意味で、これからのことを考えますと、短期的には、それこそコロナとかたくさんあるんですけど、大きく分けると、地方分権をどう進めるかということを我々は1つのパワーセクターとして主張していくことが大事なんじゃないかなと思います。

もう一つ、関西の発展、そのために我々はどのように協力をしていって、ちょっと言葉はきついかもしれませんが、統合ということをどう考えるか、ということを議論していくということじゃないかなと思っています。

○神戸新聞 藤井 新広域連合長にもう1点だけ。10年たって、より存在感をアピールするといいますか、より国に訴えていくためにどういったことを、先ほどと重なるかもしませんが、もう一言いただけますか。

○仁坂副広域連合長 これから皆さんと議論していかないといけない。広域連合は制度的には独任制なんですけども、合議体でありますから。我々の一種の憲法として、みんなで話し合って、広域連合委員会でまとまって行動していこうと。こういうふうになっておりますので、あんまり具体的なことを1人でべらべらしゃべるとするのは適当ではないと思っています。

ただ、どうしても関西の発展のためには協力するところはもっと増やしていったほうが絶対にいい、例えば制度を少し合わせていくとか、そういうことを徐々にやっていったら、いろいろな人がより幸せになっていくんじゃないかなと。そんな展望を持っておりますけれども、中身はこれからであります。

○神戸新聞 藤井 ありがとうございます。

○事務局 ほかにご質問はございますでしょうか。

○読売新聞 山本 読売新聞の山本と申します。井戸連合長と、次の仁坂広域連合

長に1点ずつ質問があります。

まず井戸広域連合長、10年間お疲れさまでした。この広域連合長の交代に当たって、広域連合、井戸さんが引っ張ってきたと思うんですけれども、ここで代わるということに一抹の名残惜しさとか、そういうことはお感じになってないでしょうか。

○井戸広域連合長 10年やってまいりましたし、随分、最初の頃と状況も違ってきます。最初の頃は、特に民主党政権で地方分権が一丁目一番地と言われた時期にスタートをしていたわけですので、随分いろいろなことがやれるのではないかという期待がありました。しかし、現実は大変厳しかった。特に中央政府の壁は厚かったということで、これから、今コロナ禍だから1つの流れにすぎないという評価もあるかもしれませんが、コロナ禍をきっかけに、過密からもっとゆとりのある生活パターンをしたいという人たちが増えてきている。ある意味で、中央から地方への回帰現象が生じてきている。そういう新しい流れが出てきているとすれば、この10年の節目は、適切なチェンジの機会を与えてくれているのではないか。そのような意味で、私自身は、仁坂新広域連合長にバトンタッチをする適切な時期に恵まれたのではないかと感じています。

○読売新聞 山本 分かりました。ありがとうございます。

次に、仁坂次期広域連合長に伺いたいんですけれども、誤解を恐れずに質問させてもらいますと、広域連合長には、大体大阪だとか、兵庫県だとか、京都府だとか、そういうところの方々が引っ張っていくほうが望ましいのではないかというのが仁坂さんの基本にある考え方だと思うんですけれども、今回、ご自身がやられるということについては、今どうお感じになってますでしょうか。

○仁坂副広域連合長 正直に、かつ誤解を恐れのないような答弁をいたしますと、私は基本的には、人口の多い、勢いのある県の代表が広域連合長をお務めになって、私のような県の代表が副広域連合長をやった方が据わりがいいと思っていましたし、今でも一抹そう思っています。ただ、いろんな事情があって、いつまでも原理原則論ば

かりにこだわってはいけないので、私のような小さい県の代表は、大きい県の代表の意見をよく聞いて、それを統合していけば十分お務めを果たすことができるのではないかと。今はそう思って頑張ろうと思っております。

○読売新聞 山本 分かりました。ありがとうございました。

○事務局 ほかに。

○毎日新聞 木原 毎日新聞の木原です。飯泉知事にお伺いします。

先ほど仁坂県知事を推薦されましたが、仁坂さんの話の中でも少しあったと思うんですけど、皆さんの中で様々な議論された中で推薦されたと思うんですけど、最終的に仁坂知事を選ばれた理由っていうのが何かあれば教えてください。

○飯泉委員 仁坂副広域連合長をご推挙する時にも、まず最初に井戸広域連合長にお疲れ様と申し上げさせていただいたように、やはり10年間にわたって井戸広域連合長をずっと副広域連合長でお支えをいただいたのが仁坂副広域連合長でありました。そうした意味では、この関西広域連合というのは、あくまでも合議体でもありますから、広域連合長と副広域連合長のあうんの呼吸というのが大変重要なのですよね。そうした意味では、井戸知事がここまで10年間で積み上げてきていただいた大きな成果、これを十分に引き継いでいただくとともに、今度、西脇委員を副広域連合長にご推挙なされたわけですが、仮に西脇委員が就かれるということになりましたら、今度はまた新しい感覚で、この関西広域連合が仁坂・西脇ラインで築き上げられ、そして我々がお支えし、共に頑張っていく新たな10年がスタートを切るということになりますので、これまでの井戸広域連合長に引いていただいたこの成果といったもの、あるいは、そのラインといったもの、これをさらに大いに発展させていただけるのではないかと、こうした思いで仁坂副広域連合長を推挙させていただきました。

○毎日新聞 木原 ありがとうございます。井戸知事にもお伺いします。

これは井戸知事も同じ意見だということで受け止めはよろしいでしょうか。

○井戸広域連合長 なるべくしてなっていたいただいた仁坂新広域連合長ではないかと、

そのように私も確信しております。

○毎日新聞 木原 ありがとうございます。

○事務局 ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で終了させていただきます。どうもありがとうございました。

○井戸広域連合長 ありがとうございます。これからも広域連合をよろしく願
いいたします。

○事務局 なお、この後、3階のメインホールで10周年記念式典を開催します。ど
うぞよろしく願います。

なお、委員の皆様、式典開始は13時30分ですが、3階メインホールで13時20分頃か
ら10年の歩みをまとめた動画を流しておりますので、よろしければご覧いただければ
と思います。願います。

閉会 13時10分